



発行：青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課  
〒030-0801 青森市新町1丁目3-7  
TEL：017-718-1376 FAX：017-718-1371  
E-mail：bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp

令和3年度 第3回地域学校協働活動推進員研修会

4月から何する？ — 令和4年度の地域学校協働活動 —

令和4年3月3日(木) 市役所 柳川庁舎 大会議室



3月3日(木)に市役所柳川庁舎大会議室にて地域学校協働活動推進員の第3回研修会を開催しました。年度末のお忙しい中、14名の方に参加いただきました。

「4月から何する？」というテーマで造道中学校区（造道中・小、小柳小）3校の推進員の皆さんから、これまでの活動の経緯を含めて来年度に向けての具体的な活動内容などを発表していただきました。

●造道中学校区における協働活動の経緯と現状 ●造道中学区3校それぞれ

の取組 ●来年度を見据えた活動予定を主な柱に、活動の具体的な様子などの紹介を入れながら、たいへん分かりやすい発表でした。

その後のグループ協議は、3つのグループに分かれ、自己紹介、今年度の成果や課題、来年度に取り組みたいことなどを話し合いました。今回は協議時間を大幅に増やし、70分確保しました。皆さんは日常活動で感じている悩みや疑問を話し合ったり、他校の活動の進め方を聞いたり、長く経験を積まれた推進員と様々な情報交換をしたりと、文字通り時間を忘れて各グループが熱心に話し合っていました。



研修の感想を紹介します

- ・グループ協議がとても参考になりました。地域といかに繋がるかが課題だと思いました。
- ・造道中学校区の取組はとても勉強になりました。
- ・今年度推進員になったばかりで、活動の進め方がよくわかりませんでした。今回の発表は大変参考になりました。
- ・グループ協議で他の学校の取組内容などを聞いて、事前の打ち合わせや人材確保の大変さを改めて知りました。
- ・図書ボランティアが広く活動していることが大変参考になりました。
- ・人数の多い学校のPTAのみなさんはたくましいです。うらやましい。

造道中学校区の発表を聞いて

令和4年度に向けて準備することや、年度始めにまず取り組むことなどを発表していただきました。10余年前の造道小読み聞かせグループがボランティア活動の始まりでしたが、その後、学校からの依頼に応えたり、中学校での図書館整備活動を学校へ提案したりと、どんどん活動の幅を広げて現在に至っています。まずは「参加するボランティアのみなさんが活動を楽しめる内容にする」というポリシーが、活動を続けるエネルギーになっていると感じました。令和4年度に向けてとても参考になる発表でした。

(写真左から小柳小 今推進員、造道中・小 原田推進員、加藤推進員)



## 地域・学校・保護者の円滑な連携を目指す協働活動【沖館小学校】

沖館小学校は、児童数 551 名で 32 学級という市内でも有数の大規模校です。地域学校協働活動を進めていく際、保護者の協力を得やすい反面、情報が全ての保護者にしっかりいきわたりにくい課題があるようです。村林推進員は、沖館小学校ならではのメリットを最大限に生かすよう、様々な手立てで学校と連携しながら協働活動を進めています。

### 沖館小学校 田中直樹 校長先生

子どもたちが学習活動を進める際に、先生だけでなく保護者や地域の皆さんと学ぶことは大変意義のあることだと考えています。今年度校長として赴任しましたが、学校の教育活動の様々な場面でボランティアの皆さんにご支援をいただき感謝しています。今年度は感染防止の観点から、自粛や変更をせざるを得ない活動も多くあり残念でした。収束後を視野に入れながら、村林推進員とともに地域と学校が連携していきたいと考えています。



### 沖館小学校 村林礼奈 推進員

教育活動を支援する上で、子どもたちが楽しく学習するだけでなく、ボランティアの皆さんも参加して楽しかったという思いを持ってほしいと考え取り組んできました。沖館小学校は、大規模校で保護者数も 1000 名を超えています。ボランティアの呼びかけにも本当に多くの方が応えて下さいます。一方で、大規模校ゆえに伝えたい情報が各家庭へ確実に届ける際になかなか確認しづらいのが現状でした。また、新型コロナウイルス感染防止のため、打ち合わせ会議や支援活動のために学校に入ることも難しい状況もありました。そこで、校内全家庭と繋がる SNS ネットワークを作りました。保護者のご理解のもと、関係機関の安全対策の指導を受けて、現在は円滑に運営されています。今後も、より効果的な機能が発揮できるよう改善していきたいと考えています。

## ボランティアと繋がる(情報を共有するネットワーク作り)

- ・全保護者を繋ぐ SNS による連絡網作り
  - コロナ感染防止の観点からも非接触型の運営が効果的に行われた。
  - お知らせや各委員会の連絡は、保護者へ直接メールすることで確実に周知できるようになった。
  - 会議や打ち合わせを放課後の学校に集まるのではなく、SNS 上で実施できるようになった。
  - 年度初めに年間の協働活動一覧をネット上に示して、ボランティアを募集した。参加者は見通しを持って希望する活動を選べるようになった。
- ・学校支援ボランティア活動を紹介するホームページ作成
  - 各家庭だけでなく、広く地域への活動広報の手立てとなった。



## 学校と繋がる(円滑な教育活動支援)

- ・感染対策を取りながら多くの協働活動を推進
  - 教科学習支援
  - 家庭科調理実習(写真右)やミシン学習の支援
  - 1年生の給食指導支援 登下校見守り 等



## 地域と繋がる(地域との信頼関係を育てる交流活動)

- ・教育振興会を活用した地域との交流
  - 沖小農園での収穫体験(写真左)等
  - (教育振興会は卒業生保護者や地域住民と学校を繋いでいます)
- ・地域の人材を生かす工夫
  - 地域の歴史学習のゲストティーチャー、木工体験の指導者
  - 調理実習の講師、部活動のクラブ化に際しての指導者や見守り等

## 編集後記

今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から多くの協働活動が自粛・休止を求められ、地域学校協働活動推進員の皆さんは、様々な場面でコーディネーターに苦労しながら学校と地域を繋ぐ活動に取り組まれたことと思います。各校での実践例を「てとて」で紹介することで、少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

【担当 伊東暁生】